

2008年度(第22期)

事業報告書

自 2008年4月1日 至 2009年3月31日

目次

1. 2008年度重点領域
2. 4つの重点領域における活動の報告
 - グローバル・イシューと日本政府および ODA への提言活動
 - NGO の理解促進と他セクターとの連携
 - NGO の能力強化と社会的責任の向上
 - 安定した事務局体制づくり
 - JANIC 共通事業
3. 自己財源確保に向けて数値目標(3ヵ年の推移)
4. 2008年度JANIC事務局体制
5. 組織の運営に関する関連情報

特定非営利活動法人 国際協力NGOセンター(JANIC)
東京都新宿区西早稲田 2-3-18 アバコビル 5F

2008 年度 事業報告

1. 2008 年度重点領域

2008 年度は 3 ヶ年計画の 2 年目であり、年度当初は以下のことを重点領域としてあげていた。

一部未達成のものもあったが、2008 年度は多様な活動を効率よく推進し、おおむねこれら重点領域については達成できた。何よりも 2008 年 G8 サミット NGO フォーラムのスムーズな運営と、自己財源の増加をそれなりに果たすことができたことは、2008 年度の成果として重要な点であった。

< 4 つの重点領域 >

「グローバル・イシューと日本の ODA への提言活動」
「NGO の理解促進と他セクターとの連携」
「NGO の能力強化と社会的責任の向上」
「安定した事務局体制作り」



自己財源の確保へ

また重点施策としてあげていた、「2008 年 G8 サミット NGO フォーラムの運営」、「NGO のアカウンタビリティ向上のための行動基準の普及」、「CSR 推進 NGO ネットワークの活動」、「常任理事会および事務局体制の強化」、「自己財源の確保」については、以下のような成果を出すことができた。

- ・ 2008 年 G8 サミット NGO フォーラムに 141 の NGO が所属し、G8 サミット北海道市民フォーラムとともに、洞爺湖サミットにむけて多様な提言活動とアピール活動を展開した。また 2008 年 9 月には、ODA 改革パブリックフォーラムを開催し、JICA-JBIC 統合を前に、ODA に対する NGO の意見を訴えることができた。
- ・ アカウンタビリティ環境を活性化するため、手軽に取り組めるアカウンタビリティ・セルフチェック 2008 を作成した。41 の項目を自らチェックするもので、立会人サービスを JANIC から提供するとともに、結果を公開した NGO には、専用マークの使用を許可している。2008 年度末で、11 の団体がこれに取り組んだ。
- ・ CSR 推進 NGO ネットワークには、24 の NGO が参加し、通算 6 回の勉強会と共に、2 回（内 1 回は地方）のシンポジウム、連携事例調査を開催し、NGO と企業の連携事例の紹介とそのあるべき姿について、議論の場をつくることができた。
- ・ マネージャー 1 名の増員、月 1 回の事務局会議と常任理事会、週 1 回のグループ会議およびマネージャー会議を実施することで、円滑な決定プロセスを維持した。
- ・ 自己財源確保には、まだ努力が必要な部分があり、模索が続いているが、2007 年度比で 338 万円の増加を生み出すことができた。

また、計画にはなかったが、日ごろから接触の少ない正会員 NGO 25 団体を、スタッフで分担して訪問することができた。訪問を通して、これまでなかなか実感できなかった様々な会員のニーズを把握することができた。

認定 NPO 法人の申請、管理グループの強化、マネージャー体制のさらなる強化と自己財源の拡大など課題は残っているが、これまで以上に 3 ヶ年計画最終年度である 2009 年度は当初の目標に向かって進んでいく必要がある。

2. 4つの重点領域における活動の報告

グローバル・イシューと日本政府および ODA への提言活動

主担当部門

- ・ 調査・提言グループ

重点戦略

- ・ G8 サミットを通じて、JANIC の会員団体が提言を活発に行う場を提供するとともに、JANIC が効果的な提言活動を行うための能力を高める。また、分野横断的な NGO の連携の促進、市民参加の機会の提供、国際的なネットワークの拡大にも努める。
- ・ 既存の定期協議会の枠組みを活用すると同時に、「ODA 改革パブリックフォーラム」等の実施を通じて、ODA に関する新たな政策提言活動の場づくりも行う。
- ・ 提言活動の年間の目標や方針を理事会、及び、事務局で共有し、NGO が適切なタイミングで主体的な政策提言を行える場を提供する。また、正会員団体が積極的に提言活動に参加するよう働きかける。

2008 年度の振り返り

- ・ 2008 年 G8 サミット NGO フォーラムの運営と洞爺湖サミットにおける提言活動を行ない、NGO の参加の場をつくとともに、国際的な NGO ネットワークと活発に連携した提言活動を展開した。
- ・ JICA と JBIC 統合に際して、旧 NGO-JICA 協議会と旧 NGO-JBIC 協議会の統合に中心的な役割を果たした。
- ・ ODA 改革パブリックフォーラムを関西 NGO 協議会、名古屋 NGO センター、ODA 改革ネットワークと共催で実施し、JICA と JBIC の統合に際して、NGO からの問題意識を発信していった。
- ・ 2008 年 G8 サミット NGO フォーラム、ODA 改革などの提言活動において、政府の政策決定に影響を与えるための提言戦略を有していなかった。
- ・ NGO 外務省定期協議会の枠組みと役割の見直しについて、関係者間で十分な検討に基づく合意形成をすることができなかった。

- ・ ODA 改革に関する提言書を作成することができなかった。

主な事業（詳細別紙「2008 年度 JANIC 事業計画表」参照）

【G8 サミットおよび MDGs に関する提言活動】

- ・ 2008 年 G8 サミット NGO フォーラムの運営および推進
- ・ 2008 年 G8 サミット NGO フォーラムの事後評価と提言 NGO グループ立ち上げの事前調査

【定期協議会における提言活動】

- ・ NGO 外務省定期協議会
- ・ NGO - JICA 協議会

【ODA に関する提言】

- ・ ODA 改革パブリックフォーラム
- ・ 提言活動勉強会

【その他提言活動】

- ・ グローバル・イシュー関連
- ・ 国内 NPO 関連

NGO の理解促進と他セクターとの連携

主担当部門

- ・ 広報・渉外グループ

重点戦略

- ・ 広範囲に渡るターゲットから、「NGO の理解促進」と「他セクターとの連携」を念頭に「選択と集中」を行い、安定した自己財源の確保に繋がる事業を中心に展開する。
- ・ 団体（NGO）協力会員の勧誘を積極的に行うとともに、企業を会員獲得のターゲットのみならず協働事業のパートナーとしても位置づけ、自己財源の確保に繋がるような提案を積極的に行う。
- ・ 国際協力や NGO のことを幅広く市民に理解して貰うために、これまであまり JANIC が得意として来なかったフィールドにも積極的に入って行く。例えば、アーティストとのコラボレーションや企業とのタイアップ事業などを行い、国際協力や NGO への理解者のパイを広げるための活動を促進する。
- ・ 「NGO サポート募金」を寄付金獲得の最重要ツールとして位置づけ、企業と個人の両方をターゲットに積極的にアプローチを行う。そのために、「NGO サポート募金」ウェブサイトの充実やクレジット決済機能の提供、メルマガと連動した広報、企業との協働プロジェクトの実施などを推進する。

2008 年度の振り返り

- ・ 広報戦略を立案し、広報計画のゴール設定や広報課題の抽出、コミュニケーションのターゲットや目的の確認などを行うことができた。また、広報戦略に基づいて各種広報ツールや情報インフラを一通り整備することができた。一方で、戦略作りやインフラ整備に追われ、NGO サポート募金、定期セミナー、書籍販売などを除いては、数値的な成果を残すまでには至らなかった。
- ・ NGO サポート募金に関しては、特に法人向けにはヤマダ電機に引き続いて、ADK アーツなど連携先企業の数も増え、寄付金を継続して獲得できる仕組みを構築できた。同時に、連携先企業の選定基準を設ける必要性も出てきたので、JANIC としての選定基準策定に向けて検討を開始した。また、個人からの募金拡大に向けては、クレジット決済機能の導入を進め、2009 年 5 月 1 日からの実施を確実なものとした。
- ・ 他セクターとの連携に関しては、「選択と集中」に基づき企業・自治体・労組に対して戦略的にアプローチを行った。特に企業に対しては、「CSR 推進 NGO ネットワーク」を立ち上げ、CSR に関する最新動向や知識の習得、企業の CSR 部門との関係構築を行うことができた。
- ・ 既存会員（団体協力・企業・個人）へのフォローは丁寧に行えたが、新規会員発掘は、正会員以外の会員メリットが描き切れていないため、計画通り進まなかった。下期より、団体協力会員への新規アプローチは当面取り止め、正会員獲得にマンパワーをシフトした。
- ・ JANIC からの情報発信は積極的に行えたものの、国際協力 NGO の理解者のパイを広げるためには、メディアなどを効果的に活用することと世界の現状をわかり易く伝えることの必要性を感じた。

事業ごとの評価と主な成果・課題（詳細は添付別紙参照）

【広報ツールの拡充】

- ・ ウェブサイトリニューアル
- ・ メールマガジンの発行
- ・ JANIC パンフレットの作成
- ・ NGO 理解促進キャンペーン（旧称：NGO 共同キャンペーン）

【会報誌】

- ・ シナジーの発行

【NGO 市民情報センター】

- ・ NGO 市民情報センターの運営

【市民向けイベント・セミナー】

- ・ イベント出展・パネル作成
- ・ 国際協力 NGO 入門セミナー・国際協力 NGO 就職ガイダンス

- ・ グローバルフェスタ JAPAN 2008
- ・ 国際協力ブックフェア
- ・ テーマ別セミナー

【他セクターとの連携促進】

- ・ 自治体国際化協会との連携
- ・ 東京都国際交流委員会との連携
- ・ NGO - 労働組合国際協働フォーラム
- ・ CSR 推進 NGO ネットワーク (NGO 研究会)

【支援者拡大】

- ・ 会員管理・会員サービス拡充・会員拡大 (対象：企業会員と団体協力会員)
- ・ NGO サポート募金

【広告・協賛】

- ・ シナジー広告
- ・ 企業協賛

NGO の能力と社会的責任の向上

主担当部門

- ・ 人材育成グループ

重点戦略

- ・ NGO の「能力強化」と「社会的責任の向上」に結びつく事業を展開する。
- ・ 「能力強化」については、NGO のニーズに合い JANIC の強みを活かした研修を行う。2008 年度は新規研修を企画することよりも、既存・継続研修を確実に実施することにフォーカスする。また、地方の NGO や海外駐在員のニーズに応えるために、将来的な e-learning の実施を視野に入れ、e-learning の市場調査や内部勉強会を行う。
- ・ 「社会的責任の向上」については、NGO の SR (Social Responsibility) 強化に繋がる事業を中心に行う。具体的には、社会的責任の中でアカウンタビリティを捉えることを目的にしたセミナーの開催と NGO のアカウンタビリティ強化推進事業を実施する。

2008 年度の振り返り

- ・ 専従のグループマネージャーを 2008 年 10 月に配置し、2009 年度開始時には能力強化グループに名称変更を行いつつ、スタッフ 2 名体制を確立した。
- ・ 「能力強化」関連では複数年計画に基づく事業 (次世代リーダー育成事業および NGO の「危機管理・安全管理」研修) は引き続き内容面での充実と着実な実施を行った。2 年度目を迎えた外務省主催 NGO 長期スタディ・プログラムについては、NGO にとって利用しやすい制度運用について主催者と協議を進めた。

- ・ 当初予定されていた地方の NGO や海外駐在員のニーズに応える手段としての e-learning に関する内部検討は進まなかった。他方、既存事業での地方参加者への交通費補助の強化、JANIC Laboratory2008 受講生への録音データ貸出サービスなどの提供に努めた。
- ・ 「社会的責任の向上」については、「アカウンタビリティ・セルフチェック 2008」が正式に開始され、JANIC も含めた 11 団体のチャレンジ実施に至った点は大きな成果と考える。他方、SR (Social Responsibility、社会的責任) の中でアカウンタビリティについて扱うことを目指した外務省のセミナー事業は受託できなかった。
- ・ 長年継続してきた会計講座については助成元である地球環境基金の制度変更を受け一旦区切りをつけ、新テーマとして SR を取り上げた研修を実施し、一定の評価を得た。今後は、他地域のネットワーク NGO 他との協働で SR、アカウンタビリティへの理解促進と、セルフチェックを通じた実践支援を進める予定。

主な事業（詳細別紙「2008 年度 JANIC 事業計画表」参照）

【NGO の能力強化】

- ・ 会計講座（SR：Social Responsibility に関する内容で実施）
- ・ 長期スタディ・プログラム
- ・ 次世代リーダー育成事業（研修 + 助成）
- ・ NGO の「危機管理・安全管理」研修

【NGO の社会的責任の向上】

- ・ アカウンタビリティ強化推進（アカウンタビリティ基準普及システム推進）
- ・ アカウンタビリティ・セミナー

安定した事務局体制づくり

主担当部門

- ・ 管理グループ

重点戦略

- ・ スタッパー一人一人が業務処理知識の習得に努め、専門性を高めて日常業務を迅速かつ正確に処理できるように心がける。
- ・ 管理グループの獲得したノウハウを事務局全体の業務処理に効果的に活用する。

2008 年度の振り返り

- ・ スタッパー一人一人の能力向上と、日常業務が迅速に処理できるよう目指したが、度重なるスタッフの交代があり、通常の事務処理水準を維持するのに追われ、グループ全体の質的向上は達成できなかった。
- ・ 管理グループが業務に習熟し、そのノウハウを活かして事務局全体の業務処理に寄与する

との目標も、手付かずのまま実行できなかった。

- ・ 2008 G8 サミット NGO フォーラムは、各助成先への会計報告が中間報告を含めると 10 数回に及び、管理グループにとってかなりな負担であった。しかし、いずれの報告も無事済ませることが出来、これは今年度の大きな成果と言えるだろう。

主な事業（詳細別紙「2008 年度 JANIC 事業計画表」参照）

- ・ 業務手続方法や書類フォームなどの業務手順、及び、統一様式を提案する。
- ・ 正会員数 83 団体を目指すとともに正会員サービスの見直しと改善の提案を行なう。
- ・ 2008 年 G8 サミット NGO フォーラム事業の増加に対応し、財務・会計体制、及び、処理基準を確立する。
- ・ 年間業務スケジュールを定め、計画的な管理運営を行う。

JANIC 共通事業

2008 年度の振り返り

- ・ 従来継続して受託している外務省主催 NGO 相談員業務を着実に実施した。
- ・ また、新たな JANIC 共通事業として、NGO スタッフに限らず一般からの参加者も含めた知的集約度の高い学びの場として過去の検討されてきた「NGO 大学」を「JANIC Laboratory」として一定の収益性を見込める連続講義形式の事業設計を行い、実施を行った。参加者の反応や外部の関心も高かったため、他の形式での試行も重ねつつ中期的に自主事業としての確立を目指す予定。

主な事業（詳細別紙「2008 年度 JANIC 事業計画表」参照）

- ・ NGO 相談員
- ・ JANIC Laboratory（旧称：NGO 大学）

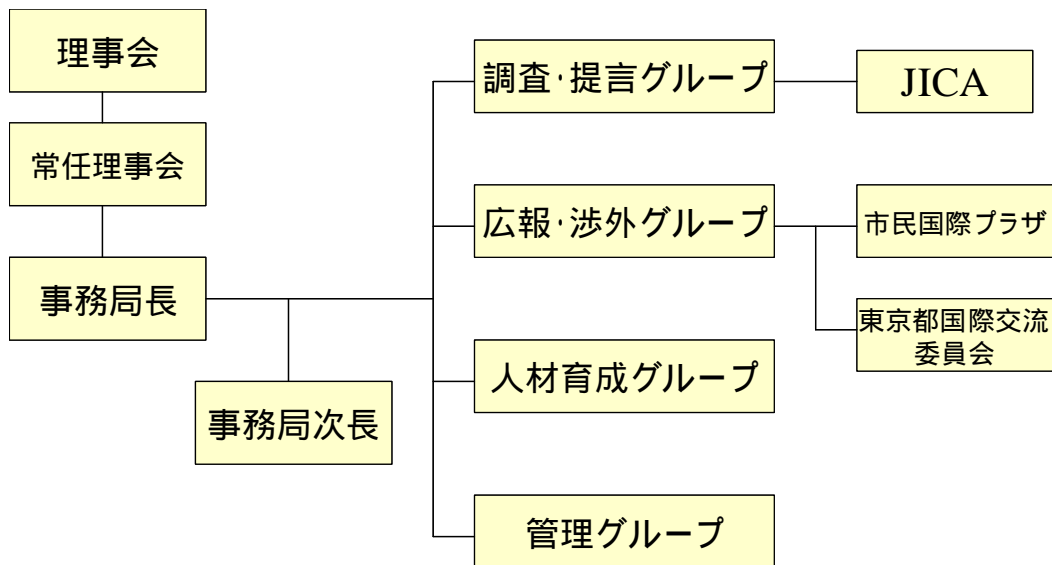
3. 自己財源確保に向けての数値目標（3カ年の推移）

		2007年度実績		2008年度実績		2009年度予算	
会費	正会員	76団体	¥4,480,000	82団体	¥5,286,000	88団体	¥5,510,000
	個人協力会員	200名	¥1,930,000	174名	¥1,766,000	200名	¥2,042,000
	協力団体会員(非営利組織)	63団体	¥2,520,000	58団体	¥2,487,000	60団体	¥2,350,000
	団体会員(企業)	17社	¥1,220,000	20社	¥1,310,000	26社	¥1,500,000
	小計		¥10,150,000		¥10,849,000		¥11,402,000
寄付	一般寄付(サポート募金除く)		¥1,340,000		¥872,735		¥1,300,000
	サポート募金・個人(左:総額、右:JANIC収益)	¥1,469,038	¥146,904	¥2,792,840	¥279,284	¥3,000,000	¥300,000
	サポート募金・法人(左:総額、右:JANIC収益)	¥2,101,000	¥210,100	¥11,171,350	¥1,117,135	¥17,000,000	¥1,700,000
	サポート募金・緊急支援(左:総額、右:JANIC収益)			¥1,048,350	¥104,835		¥0
	小計(JANIC収益)		¥1,697,004		¥2,373,989		¥3,300,000
広告協賛	シナジー広告		¥650,000		¥640,000		¥960,000
	企業協賛		¥500,000		¥700,000		¥1,200,000
	G8協賛				¥970,000		¥0
	MDGsキャンペーン協賛				¥0		¥500,000
	小計		¥1,150,000		¥2,310,000		¥2,660,000
事業収入	入門セミナー・就職ガイダンス	入門21名/ 回、就職26 名/回	¥700,000	入門25名/ 回、就職35 名/回	¥883,500	入門・就職・ 就職特別 版・テーマ別	¥1,300,000
	ブックフェア(左:総額、右:JANIC収益)	¥950,000	¥410,000	¥1,713,907	¥462,432	¥1,700,000	¥500,000
	JANIC出版物(左:総額、右:JANIC収益)			¥215,610	¥208,860	¥300,000	¥276,000
	ダイレクトリー販売(左:総額、右:JANIC収益)			¥130,070	¥130,070	¥125,000	¥125,000
	シナジー販売(左:総額、右:JANIC収益)			¥84,100	¥84,100	¥80,000	¥80,000
	JANIC Laboratory(左:総額、右:JANIC収益)			¥509,000	¥153,267		¥200,000
	講師派遣		¥1,200,000		¥1,230,880		¥950,000
	小計(JANIC収益)		¥2,310,000		¥3,153,109		¥3,431,000
総合計(JANIC収益)			¥15,307,004		¥18,686,098		¥20,793,000
前年比(左:金額、右:%)				¥3,379,094	122%	¥2,106,902	111%

* G8サミットNGOフォーラムの協賛金は本会計とは別の管理で行ったもの。

4. 2008 年度 JANIC 事務局体制

- ・ 昨年下半年より立ち上げた4つのグループ（調査・提言グループ、広報・渉外グループ、人材育成グループ、管理グループ）を中心に各事業を遂行した。人材育成グループについては、下半年より新たにマネージャーを置くことができた。それに伴い、マネージャー会議を毎週開催し、重要な事務局運営事項を話し合う場として定着しつつある。
- ・ 毎週実施されているグループ会議が定着したことから、スタッフ全員が参加する事務局会議はこれまでどおり月1回開催としつつ、議題は主に各グループからの事業報告とし、スタッフ間の情報共有の場とした。
- ・ 常任理事会は毎月開催され、運営上で重要と思われる事項について迅速に審議をし、組織のスムーズな運営の基盤となっている。
- ・ 昨年下半年より導入した時間外労働管理体制は、マネージャー体制の安定に伴い、ほぼ滞りなく実施されるようになってきている。



以上

実施事業一覧

グローバル・イシューと日本政府および ODA への提言活動

【G8 サミットおよび MDGs に関する提言活動】 < 継続 >

2008 年 G8 サミット NGO フォーラムの運営および推進	<p>2008 年の G8 サミットに向けて結成したネットワークである 2008 年 G8 サミット NGO フォーラムの全体事務局、貧困・開発ユニットの事務局を担い、G8 サミットに向けた提言活動を活発に行った。</p> <p>主な成果は、第 1 に JANIC の正会員 NGO をはじめ日本の NGO が提言を活発に行う場を提供することで、政府と NGO の政策対話がなされた。第 2 に JANIC が効果的な提言活動を行うための能力を高めることができた。第 3 に分野横断的な NGO の連携を促進し、環境 NGO など他分野の NGO とのネットワークを拡大することができた。主な課題は、第 1 に NGO の提言内容が政府の政策決定への影響は限定的だった。第 2 にキャンペーン活動を実施し日本の市民や他セクターが NGO の提言に賛同し、キャンペーン活動に積極的に参加する場を提供したものの、日本社会におけるキャンペーン活動の広がりは限定的だった。</p>
2008 年 G8 サミット NGO フォーラムの事後評価と提言 NGO グループ立ち上げのための事前調査	<p style="text-align: center;">NGO 専門調査員による調査</p> <p>NGO 専門調査員による調査を通じて、2008 年 G8 サミット NGO フォーラムの成果と課題について分析し、今後の NGO の提言活動のあり方に向けた提言を調査報告書にまとめた。</p> <p style="text-align: center;">G-CAP Japan の立ち上げへの協力</p> <p>G-CAP Japan の立ち上げに協力するとともに設立後は運営委員を務め、MDGs 達成を目指すための日本の NGO のネットワークを構築した。</p> <p style="text-align: center;">MDGs キャンペーンの準備</p> <p>2009 年度以降に実施を予定している MDGs キャンペーンの準備を行った。</p> <p style="text-align: center;">提言戦略づくりとネットワークの維持・促進</p> <p>G8 サミットの機会に築いた NGO のネットワークの維持、促進に務め、2009 年度の提言戦略づくりを行った。しかし 2009 年の G8 サミットに向けた政府機関との政策対話に関するフォローアップは限定的だった。</p>

【定期協議会における提言活動】 < 継続 >

<p>NGO 外務省定期協議会</p>	<p>連携推進委員会、ODA 政策協議会、全体会議を通じて外務省と定期協議を行い、NGO と外務省の連携について協議すると共に、ODA に関する提言を行い、次のような成果があった。</p> <p>連携推進委員会は JANIC 理事が委員を務めると共に事務局を担当し、「NGO との戦略的連携に向けた 5 力年計画」に関する協議を行うなど、外務省と NGO の連携を促進し、協議のあり方に関して相互理解を深めた。</p> <p>ODA 政策協議会では、JANIC 理事がコーディネーターを務め、ODA 政策に対する NGO の提言の場づくりと調整を行った。全体会議の機会には JJ(JICA-JBIC)統合に向けて、ODA 改革に関する NGO と外務省との対話を行った。</p> <p>一方で課題は、NGO 外務省定期協議会の枠組みと役割の見直しについて、関係者間で十分な検討に基づく合意形成を行うことができなかったことである。</p>
<p>NGO - JICA 協議会</p>	<p>上半期は、NGO 側委員及び事務局として、10 月の新 JICA 発足に伴う旧 NGO - JICA 協議会と旧 NGO - JBIC 協議会の統合に向け、新たな体制構築を協議し実施要項の策定に取り組んだ。下半期は新協議会の NGO 運営に関し、NGO から公募し投票により 7 名の NGO 側コーディネーターを選出し、JANIC から NGO 側コーディネーター 1 名が選出された。議題と参加者も公募方式となり、3 月に第 1 回新 NGO - JICA 協議会を開催した。</p>

【ODA に関する提言】 < 新規 >

<p>ODA 改革パブリックフォーラム</p>	<p>JANIC、関西 NGO 協議会、ODA 改革ネットワーク、名古屋 NGO センターの共催により、ODA 改革に関する議論を行うパブリックフォーラムを開催し、NGO、市民、政府、議員、メディア、研究者など様々な立場から 105 名の参加を得た。</p>
<p>提言活動勉強会</p>	<p>本年度内は実施せず、来年度以降の実施を検討した。</p>
<p>国際協力に関する有識者会議</p>	<p>JANIC から委員を派遣して議論に参加したことは評価できるが、NGO 委員の意見は最終覚書にあまり反映されなかった。</p>
<p>ODA の援助効果に関する提言活動</p>	<p>2008 年 9 月に開催された援助効果にかかる第 3 回閣僚級会議（アクラ・ハイレベル・フォーラム）に JANIC 関係者を派遣</p>

	し、提言書をまとめたことは評価できる。しかしながら、上半期に開催された援助効果に関する外務省との意見交換会（3回実施）等を含め、JANICの組織として主体的にかかわることができなかった。上半期の反省を踏まえ、下半期には2009年度以降に援助効果の調査・提言活動を主体的に行うための準備を行った。
--	-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

【その他提言活動】< 継続 >

グローバル・イシュー関連	成果は、第一に G8 NGO Platform Network の参加団体の一員として、G8 サミットに向けた提言活動を行った。第二に、National NGO Platform の会議への参加、CIVICUS の会員団体としての参加などを通じて、グローバル・イシュー関連する国際的な提言活動の動向の情報収集を行った。課題は、Reality of AID などアジアの NGO とのネットワーク構築についてはほとんど行うことができなかった。
国内 NPO 関連(ISO、公益法人改革など)	ISO-SR については、新しい非営利組織の社会的責任の新しいあり方を学び、NGO としての将来の SR のあり方を考えた。具体的には、SR 国内委員会の透明性と決定方法を改善し、NGO セクターとしてコメントの集約と提言を行った。また「NPO/NGO 社会的責任向上ネットワーク(略称: NN ネット)の幹事団体を務め、円滑な運営に協力した。一方で、公益法人法の改革にあわせ、NPO 法人の動向を学ぶことを年度の目標にあげていたものの、十分に対応できなかった。

NGO の理解・促進と他セクターとの連携

【広報ツールの拡充】

<p>ウェブサイトリニューアル < 継続 ></p>	<p>ウェブを介した情報発信を充実させるために、上期にはシステムトラブルの原因となっている「情報掲示板」や「事務局長ブログ」などを別システムに移行させるという応急処置を行った。下期は、現サイトを運営しつつ、本格的にウェブ機能を向上させるために、全面リニューアル計画を立て実行した。2009年4月1日より新しいサイトを運営している。2008年度中の平均サイト訪問者数は26,000強と目標には届かなかったが、上期の応急処置後、実績値は上昇した。</p>
<p>メールマガジンの発行 < 継続 ></p>	<p>NGO のイベント、ボランティア情報などを発信すると共に、スタッフコラムなど JANIC の顔が見えるような温かみのあるコンテンツ作りを目指し、隔週で配信を継続した。緊急災害時には臨時号を発行し、積極的な情報発信を実施した。メールマガ購読者数は伸び悩み、2009年3月末で2,700名程。年間の推移では86名の増加に留まった。</p>
<p>JANIC パンフレットの作成 < 新規 ></p>	<p>JANIC の最新事業形態や JANIC の役割である「ネットワーク」を強調したリーフレットを新規に作成した。発行部数は2009年6月の理事改選までの1年間を使用期間として1万部。加えて、JANIC の活動紹介や寄付、入会の提案をする際に活用する法人提案書を作成した。デザインや内容など、全体的なトーン&マナーをそろえた広報ツールとして仕上がった。</p>
<p>NGO 理解促進キャンペーン（旧称：NGO 共同キャンペーン） < 新規 ></p>	<p>JANIC が 2001 年から実施してきた「NGO つながりキャンペーン（旧称：NGO 共同キャンペーン）」を再稼働させるにあたり、小冊子「NGO ガイド」の改訂を行った。正会員の参加数は57団体と前回より上回り、企業協賛も例年並みに獲得することができた。より多くの市民に親しみを持って「NGO ガイド」を活用してもらおうべく、キャンペーン名を変更した。ガイドのデザインやレイアウトについては博報堂 CSR 部からの協力を得て進めることができた。</p>

【会報誌】

<p>シナジীর発行 < 継続 ></p>	<p>計画通り年4回の発行を行った。かねてから読者の要望でもあった文字の拡大を141号(4/10発行)から行い、読みやすい紙面づくりに努めた。発行部数は在庫コスト削減のため、1,200部から1,000部に変更。発行業務と平行して、シナジীর</p>
---------------------------------	------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

	の定期購読の拡大に向けて、全国の大学図書館と東京都内の中央図書館計 250 箇所に向けてシナジー定期購読を促す DM を発送した。
--	-------------------------------------------------------------------

【NGO 市民情報センター】

NGO 市民情報センターの運営 < 継続 >	現状の資料整理に加えて、若者をターゲットとした「NGO カフェ」開催時に、情報センター内で展示を行ったが、来館者数の増加には結びつかなかった。
---------------------------	-------------------------------------------------------------------------

【市民向けイベント・セミナー】

イベント出展・パネル作成 < 継続 >	毎年参加しているイベント（メーデー中央大会、グローバルフェスタ JAPAN2008、国際協力キャリアフェア 2008）への出展と、JANIC や国際協力 NGO 紹介のためのパネルの新調を行った。
国際協力 NGO 入門セミナー・国際協力 NGO 就職ガイダンス < 継続 >	一般市民向けの NGO の理解・普及促進を目的に、入門セミナーと就職ガイダンスを毎月 1 回開催した。早期広報と申込者へのフォローアップを実施し、入門セミナー 25 名、就職ガイダンス 33 名の月平均参加者となり、目標を達成した。
グローバルフェスタ JAPAN2008 < 継続 >	一般市民に「国際協力」を広く知ってもらうことを目的としたイベントを外務省、JICA と共に、共催団体の 1 つとして開催した。出展団体数は 265 団体（NGO は 151 団体）来場者数は 96,000 人で、共に過去最高の数字となった。
書籍販売 < 継続 >	「グローバルフェスタ JAPAN2008」、「国際協力キャリアフェア 2008」での書籍販売とその準備、また 11 月後半から 12 月中旬にかけてはその精算・返品作業を行った。天候にも恵まれ、売上が約 171 万円と目標を上回った。
NGO カフェ（旧：テーマ別セミナー） < 新規 >	国際協力や NGO の概略を理解している人々に対し、活動分野への知識を深めてもらうと共に、実際に活動に参加している人と話すことにより、更なる理解を促していく「NGO カフェ」を 2 回開催した。今年度は、ターゲットを“若者”とし、若者が行う NGO 活動にフォーカスした。国際協力 NGO 入門セミナーのアンケートで人気の高かった、教育分野および環境分野をテーマにした。

【他セクターとの連携促進】

<p>自治体国際化協会との連携 < 継続 ></p>	<p>(財)自治体国際化協会内に設置された「市民国際プラザ」にスタッフ2名を出向させ、自治体とNGOの連携推進を図る各種事業の企画・運営に協力した。主な活動は以下の通り。</p> <p>国際協力に関する情報収集・提供および啓発活動の実施 自治体や地域国際化協会、NGO等の国際協力に関する資料を収集し、情報提供を行った。また、国際協力活動の啓発を目的とした企画展を計4回開催しのべ800名が来訪した。この他、複数の国際協力イベントに出展した。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・年間来訪者数：1,841名(前年度1,471名) ・年間問合件数：1,614件(前年度1,316件) <p>国際協力を担う人材の育成</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「国際協力活動ステップアップ・ワークショップ」の実施 2009年2月19日～20日ホテルルポール麹町にて開催され、「多文化理解や市民参加を広げる国際協力とは」をテーマに計70名が参加し、自治体やNGOが連携してフェアトレードを推進していくための課題や手法について議論した。 ・「地域における国際協力推進フォーラム」の実施 兵庫県および(財)兵庫県国際交流協会との共催で、2008年11月28日にJICA兵庫国際センターで開催され、近畿地域をはじめとする国際協力・多文化共生関係者が計110名参加した。「地域に支えられた国際協力をめざして」を全体テーマに「防災」・「環境」・「多文化共生」の3つの分科会で、地域社会に支えられた国際協力のあり方や自治体・地域国際化協会・NGO・国際協力機関等の連携について、参加者間の意見交換や議論が行われた。 <p>国際協力に関するノウハウの提供</p> <p>「自治体国際協力アドバイザー派遣制度」の派遣申請の受付や講師との連絡調整など、派遣に係る運営協力を行った。 2008年度は計20名の派遣が実現した。</p> <p>国際協力活動の促進</p> <ul style="list-style-type: none"> ・来客や電話、電子メールによる国際協力に関する相談業務 ・自治体国際協力パネルの貸出し1件 ・大学生の訪問を1件受け入れ、自治体やNGOの国際協力活動を紹介 ・NGO等への会議スペースの貸出し29件
--------------------------------------	------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

<p>東京都国際交流委員会との連携 < 継続 ></p>	<p>東京都国際交流委員会に情報コーナー担当者を 1 名派遣し、より多くの市民(主に都民)や関連組織に対して、国際交流・協力に関する情報収集・管理を分かり易い形で行った。主な業務は、問い合わせ対応、ウェブ版機関誌(レスパス)の企画・作成・配信、ホームページのアップデート、関係機関・団体の機関誌・報告書・チラシなどの整理と公開など。2009 年度の相談件数は 339 件。</p>
<p>NGO - 労働組合国際協働フォーラム < 継続 ></p>	<p>計 7 回の合同企画委員会を開催し、全体事業(児童労働反対イベントや事例報告会等)やグループ(児童労働、エイズ、母子保健グループ)活動を円滑に進める為の NGO 側事務局として調整等を行った。また、9 月から始まる新年度に向けて、次期以降のフォーラムのあり方を考える場として企画委員でタスクフォースをつくり、計 3 回の会合を行い、次期以降の活動・運営方針について企画委員会へ提案した。結果、参加 NGO 制度、タスクチームの設置など、新しい体制で新年度をスタートすることができ、5 団体の新規 NGO が参加した。また新しいパンフレットを作成した。</p>
<p>CSR 推進 NGO ネットワーク (NGO 研究会) < 新規 ></p>	<p>平成 20 年度外務省主催 NGO 研究会として本事業を受託した。「MDGs 達成のための NGO と企業の連携促進」を目的に NGO 計 24 団体がネットワークを形成し、コアメンバー会合 13 回、学習会 6 回、シンポジウム 2 回、事例調査を行った。JANIC は同ネットワークの事務局を務めた。「NGO と企業の連携」に関して、参加 NGO の能力強化と連携に関する課題の抽出等を行うことができた。学習会は回を重ねるごとにオブザーバー人数が増え、12 月の東京シンポジウムには 100 名以上の参加があり、企業と NGO セクターの交流も促進できた。7 月の山形シンポジウムも参加者 41 名と盛況だった。また、事例調査では計 14 事例をピックアップし、NGO、企業双方へのヒアリング訪問を行った。</p>

【支援者拡大】

<p>会員管理・会員サービス拡充・会員拡大(対象:個人会員と団体協力会員) < 新規 ></p>	<p>昨年度までの外部委託を止め、会員管理業務(会費請求/入金確認/領収書の発送/会員データの管理/会報誌の発送など)を JANIC 内で行った。特に大きな問題もなく、円滑に業務を行うことができた。企業・団体協力会員は“顔の見える関係作り”の為、積極的な訪問を行った。団体協力会員については</p>
------------------------------------------------------------	-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

	<p>拡大できなかったが、企業会員は2社増加することができた。</p>
<p>NGO サポート募金 < 継続 ></p>	<p>募金処理業務として、入金確認や寄付者データの管理、領収書の発行や隔月の集計および団体への振り込みや募金者情報の通知等を滞りなく行うことができた。募金合計額は約1,485万円。特にミャンマーサイクロン、四川省地震災害、パレスチナガザ地区緊急支援専用まとめて募金を設置し、広く募金を呼びかけた。法人連携として、ヤマダ電機との連携は適宜話し合いを持ちながら順調に進めることができた。9月には広告代理店 ADK アーツとの連携スキームを締結した。また、「スタッフロングインタビュー」取材と記事掲載を毎月行って、顔の見える広報を行った。2009年度からのクレジット決済導入に向けて準備を行った。参加団体が4団体増加し、計65団体となった。</p>

【広告・協賛】

<p>シナジー広告 < 継続 ></p>	<p>138号2本、139号3本、140号2本、WEB掲載とのパッケージも合わせて計555,000円の広告協賛を獲得した。また、大学などの教育機関をターゲットに、理事からの紹介等を依頼し、積極的に新規営業活動を行った。</p>
<p>企業協賛 < 継続 ></p>	<p>G8サミットでは2社40万円、「NGOつながりキャンペーン（『NGOガイド作成』）」では6社70万円の協賛を獲得した。</p>

NGO の能力強化と社会的責任向上

【NGO の能力強化】

<p>会計講座（SR: Social Responsibility に関する内容で実施）</p>	<p>従来応募していた地球環境基金の助成制度枠の変更を受け、組織運営講座の一環として、関東ブロックの NGO/NPO を対象に、SR について学ぶ機会を提供した。国際規格化が進む ISO26000 の概要、SR の 7 領域中 NGO の取り組みが遅れている労働慣行と環境に関する理解の促進、アカウンタビリティと SR の関連性について学ぶ機会とし、最終的に 22 団体 23 名が参加。</p>
<p>NGO 長期スタディ・プログラム < 継続 ></p>	<p>外務省の委託事業の 2 年度目として実施。8 団体 8 名の中堅スタッフが、米国、英国、韓国、マレーシア、インドで研修を行った。うち 1 名については試行的に英国の有料研修提供機関での開発課題に関する研修と個別 NGO 研修を組み合わせた短期型での実施を行い、制度運用範囲の拡大につながった。</p>
<p>次世代リーダー育成事業 < 継続 ></p>	<p>庭野平和財団からの助成事業として、5 ヶ年計画の 4 年目として、日本の国際協力 NGO 活動を長期的に担い、組織のコアとなる次世代リーダーの育成を目指して実施。より NGO のマネジメント課題に応える研修内容とするため、支援者対応とボランティア管理に関する NGO 事例の紹介、企業の社会貢献室の協力を得た協業提案作成ワークを行った。18 団体 18 名の研修参加者、2 団体 2 名の助成対象者決定。2008 年度中に助成期間中の対象者 2 団体 2 名が退職、うち 1 団体については助成打ち切りとなり、対応策について検討委員会と共に協議をした。</p>
<p>NGO の「危機管理・安全管理」研修 < 継続 ></p>	<p>立正佼成会・一食平和基金からの助成事業であり、5 ヶ年計画の 4 年目として実施した（助成金申請は 1 年毎）。2008 年度は、「労務・管理」、「コミュニケーション」、「NGO の社会的責任（不祥事への対処を含む）」、「スタディツアー」等をテーマとして、宿泊研修 2 回、地方開催セミナー 2 回を実施した。参加者総数は 68 名であった。</p>

【NGO の社会的責任向上】

<p>アカウンタビリティ強化推進（アカウンタビリティ基準普及システム推進）</p>	<p>2008 年総会での報告を踏まえ、10 月に「アカウンタビリティ・セルフチェック 2008」としてキックオフした。当面正会員のみを対象とし、08 年度中にセルフチェックにチャレ</p>
-------------------------------------------	-------------------------------------------------------------------------------------------------

<p>< 新規 ></p>	<p>ンジし「アカウントビリティ・セルフチェック 2008 マーク」を取得した団体は 11 団体。立会人として JANIC 理事 3 名、正会員団体 1 名、事務局 4 名が研修を受け、実際のチャレンジに立ち会った。2011 年度には本取り組みの精査と SR に関する社会的時流にも則した「アカウントビリティ・セルフチェック 2011」の作成を予定している。</p>
<p>アカウントビリティ・セミナー < 継続 ></p>	<p>2006 年度及び 2007 年度に受託した外務省主催事業ではあったが、2008 年度のテーマ設定は「広報」となり、応札したが落札に至らなかった。</p>

安定した事務局体制づくり

【総務全般】

年次報告書作成 < 継続 >	総会で審議を終えた JANIC の年次報告書を印刷し、関係者や NGO 活動に関心のある関係者に配布した。
認定 NPO 法人取得 < 新規 >	認定 NPO 法人取得に向け、上期はパブリックサポートテストおよび情報収集を行なった。しかし、公益法人制度との比較から、公益法人の方が比較的有利な条件が整っているため、再度詳細な検討を継続しており、2008 年度は申請にいたらなかった。
事務作業マニュアル作成 < 新規 >	今回は、2008 年 G8 サミット NGO フォーラムなどの決算作業などに追われ、手順書および様式集作成に取り掛かることができなかった。

【JANIC のガバナンスと正会員の参加を高める】

正会員からの支援拡大 < 継続 >	規模の大きい正会員団体 4 団体から会費 2 口の増加をいただくことができた。また、新規団体の入会は +5 団体を目標とし、計 83 団体のところ、計 82 団体の正会員数まで達成することができた。
正会員ネットワーク活動（正会員のつどい） < 継続 >	正会員同士の交流、また JANIC への意見を発言してもらう場として、「正会員のつどい」を 12 月 9 日に開催することができた。今回は「日本に寄付文化を育てよう」をテーマに、シンポジウムを開催し、活発な議論が展開された。
総会・理事会・常任理事会の開催 < 継続 >	総会（1 回）理事会（5 回）常任理事会（11 回）は予定どおり開催され、組織運営の方針などをめぐる審議がなされた。

【その他の業務】

ダイレクトリーの更新作業 < 継続 >	ウェブ上に掲載している国際協力 NGO ダイレクトリーの更新を行なった。ウェブサイトの全面的な更新がされたため、以前よりも書き換えがし易くなったが、団体に配布している ID の紛失や、一部の NGO が書き換えになかなか応じないなどの課題が残った。
外務省インターンシップ < 継続 >	外務省と NGO の若手職員をお互いに派遣し、相互交流を図ることを目的に、外務省職員の受け入れと、NGO スタッフの外務省への派遣を行なった。

JANIC 共通事業

<p>NGO 相談員 < 継続 ></p>	<p>外務省主催の受託事業として、2008 年 5 月 1 日から 2009 年 3 月末日まで実施。毎月の相談対応業務（平均 67 件/月）やその報告業務に加え、年 2 回の相談員会議への出席と年 5 回の出張を実施した。</p>
<p>NGO 大学（JANIC Laboratory 2008 に改称し実施） < 新規 ></p>	<p>NGO の視点から、援助の先端的な問題を取り上げ、議論を通し学びあう「実験的な学びの場」として JANIC Laboratory 2008 を実施。対象を NGO スタッフに限定せず、NGO に強い関心もつ市民が、実践的に NGO の将来像や活動技術について学べる内容として実施した。自己財源の確保も目的の一つとし、高価な受講費設定で企画したが、募集の過程で関心はあるが受講費がネックとなって申し込みを躊躇する意見が多く聞かれたことから、価格を下方修正した。最終的には、受講者 20 名（内 NGO からの受講者 8 名）、リソースパーソン 5 名、ファシリテーター 2 名の体制で実施した。国際連合大学の後援を得、会場の無償提供を受けた。</p>

5. 組織の運営に関する関連情報

通常総会

日時：2008年6月20日（火）13：00～16：45

場所：早稲田奉仕園 リバティホール

出席：出席団体 34、書面表決票提出団体 18、委任状提出団体の 5 計 57 団体（正会員団体総数 77）

議案審議： 第 1 号議案 2007 年度事業に関する事項[事業報告書（案）]

第 2 号議案 2007 年度決算に関する事項[決算報告書（案）]

報 告： 2008 年度の事業計画に関する事項

2008 年度の収支予算に関する事項

役員（2009 年 3 月 31 日現在）

【顧 問】 船 戸 良 隆 / (特活)アジアキリスト教教育基金 専務理事

伊 藤 道 雄 / アジア・コミュニティ・センター21 代表理事

【理 事 長】 大 橋 正 明 / (特活)シャプラニール=市民による海外協力の会 理事

【副理事長】 片 山 信 彦 / (特活)ワールド・ビジョン・ジャパン 常務理事・事務局長

小 林 毅 / (特活)チャイルド・ファンド・ジャパン 事務局長

谷 山 博 史 / (特活)日本国際ボランティアセンター 代表理事

【理 事】 生 澤 千 裕 / 日本労働組合総連合会 総合国際局 総合局長

木 山 啓 子 / (特活)ジェン 理事・事務局長

熊 岡 路 矢 / 東京大学 客員教授

下 澤 嶽 / (特活)国際協力NGOセンター 事務局長

高 橋 秀 行 / (財)ジョイセフ(家族計画国際協力財団) 理事・国際協力推進部長

野 口 朝 夫 / (特活)ラオスのこども 理事・事務局長

野 口 千 歳 / (財)ケア・インターナショナルジャパン 常務理事・事務局長

秦 辰 也 / 近畿大学 教授

古 沢 広 祐 / 國學院大學 教授

松 原 明 / シーズ = 市民活動を支える制度をつくる会 事務局長

峯 村 里 香 / (特活)幼い難民を考える会 事務局長

山 口 誠 史 / (特活)シェア = 国際保健協力市民の会 理事・事務局長

横 川 芳 江 / (特活)地球の木 顧問

渡 辺 龍 也 / 東京経済大学 准教授

【監 事】 太 田 達 男 / (財)公益法人協会 理事長

浦 田 泉 / 浦田泉税理士事務所 代表

理事会の開催

- ・ 第1回 (2008年6月3日(火) 午後2時00分～5時00分)
 - 議題1．2007年度事業報告書と決算案について
 - 2．総会の進め方および議事等について
 - 3．報告

- ・ 第2回 (2008年8月29日(金)午前10時00分～12時30分)
 - 議題1．アカウントビリティ普及システムについて
 - 2．正会員の入会について
 - 障害分野 NGO 連絡会(JANNET)
 - カリタス・ジャパン
 - 3．正会員の集いについて
 - 4．報告

- ・ 第3回(2008年11月7日(金)午後3時00分～5時30分)
 - 議題1．正会員の集いの開催方法について
 - 2．2008年下半期提言活動全般について
 - 3．理事の退任の報告と補充について
 - 4．正会員入会継続審議
 - 5．報告

- ・ 第4回(2009年1月30日(金)午後3時00分～5時30分)
 - 議題1．2009年度計画第1次案について
 - 2．次期理事改選と理事会体制のあり方について
 - 3．新規入会推薦団体の審議
 - (特活)国境なき子どもたち
 - (特活)ヒューマンライツ・ナウ
 - (特活)フェアトレード・ラベル・ジャパン
 - NPO法人 聖地のこどもを支える会
 - 4．JBIC解体・ODA一元化議論に関する国際協力NGOの共同宣言について
 - 5．報告

- ・ 第5回(2009年4月3日(金)午後3時00分～5時30分)
 - 議題1．2009年度事業計画(案)及び収支予算(案)について
 - 2．新規入会団体の承認
 - (特活)グッドネーバーズ・ジャパン

- 3 . 2009年度の事務局体制について
- 4 . 総会の議題および進行について
- 5 . 報告

常任理事会

理事会では対応が難しい事項を迅速、且つ、総合的に判断する場、事務局のサポート、理事会と事務局を繋ぐ機能として、下記の通り常任理事会を開催した。

- ・ 第1回 (2008年7月18日(金)午後3時00分~5時30分)
 - 議題1 . 地域ネットワーク NGO 調整会議のあり方について
 - 2 . アカウンタビリティ普及システムについて〔中間報告として〕
 - 3 . ADKアーツ提案のピングー募金について
 - 4 . GCAPの関心表明について
 - 5 . 報告

- ・ 第2回 (2008年8月25日(月)午前10時00分~12時30分)
 - 議題1 . アクラ声明文について
 - 2 . ADKアーツの連携について
 - 3 . アカウンタビリティ普及システム最終案
 - 4 . ODA改革パブリックフォーラムについて
 - 5 . JICA寄附の対応について
 - 6 . G8サミット後の戦略について
 - 7 . 理事会の議題と進め方について
 - 8 . 報告

- ・ 第3回(2008年9月26日(月)午後3時30分~6時00分)
 - 議題1 . GCAP参加のあり方について
 - 2 . 援助効果向上(パリ宣言)の今後の対応について
 - 3 . 木附理事退任について
 - 4 . CIVICUS の入会について
 - 5 . カリタス・ジャパン入会審査について
 - 6 . 報告

- ・ 第4回(2008年10月17日(金)午後3時00分~6時00分)
 - 議題1 . ウェブのリニューアルについて

- 2. 下半期の提言活動について（特に NGO 外務省定期協議会、新 NGO - JCA 協議会の進め方、MDGs の戦略について）
 - 3. ファンドレイジング協会の世話人について
 - 4. 新 NGO - ICA 協議会の準備協議について
 - 5. アカウンタビリティ・セルフチェック 2008 の進捗について
 - 6. 木附理事の確認
 - 7. 報告
- ・ 第 5 回(2008 年 11 月 14 日(金)午後 0 時 30 分～2 時 30 分)
 - 議題 1. 正会員の集いについて
 - 2. GCAP のかわり方（アドバイザーか準備委員か）
 - 3. 次年度計画の進め方について
 - 4. 正会員メーリングリストの立上げについて
 - 5. 報告
- ・ 第 6 回(2008 年 12 月 5 日(金)午後 0 時 30 分～2 時 30 分)
 - 議題 1. ウェブサイト作成会社の決定について
 - 2. 正会員のつどいの進め方最終確認
 - 3. 来年度の人事案（第 1 ドラフト）について
 - 4. National NGO Platform、アジア地域会議加盟の最終確認
 - 5. 報告
- ・ 第 7 回(2009 年 1 月 20 日(金)午後 2 時～4 時 30 分)
 - 議題 1. 2009 年度計画 第 1 次案について
 - 2. 1 月 30 日の理事会の進行について
 - 3. 東京都国際交流委員会の委託事業の対応について
 - 4. アカウンタビリティ・セルフチェック 2008 の承認について
 - 5. 日本ファンドレイジング協会の役員対応について
 - 6. 次期理事選出のあり方について
 - 7. 報告
- ・ 第 8 回(2009 年 2 月 20 日(金)午後 2 時 00～5 時 30 分)
 - 議題 1. 2009 年度事業案と予算案
 - 2. 理事の選出方法の提案
 - 3. アカウンタビリティ・セルフチェック 2008 の承認
 - 4. 来年の事務局人事案

5. 報告

- ・ 第9回(2009年3月16日(月)午後3時00～5時30分)
 - 議題1. 2009年度計画第3案および予算案
 - 2. 人事案について
 - 3. 理事選出に関する件
 - 4. 4月3日理事会の進め方について
 - 5. アカウンタビリティ・セルフチェック 2008の承認について
 - 6. 報告

- ・ 第10回(2009年4月17日(金)午後3時00～5時30分)
 - 議題1. 2008年度の提言活動の振り返りと2009年度の戦略について
 - 2. Make The Rule キャンペーンの参加について
 - 3. アカウンタビリティ・セルフチェック 2008 終了承認
 - 4. アカウンタビリティ・セルフチェック 2008 新年度運営体制について
 - 5. 2009年度の事務局体制について
 - 6. 報告

- ・ 第11回(2009年5月11日(月)午後4時00～6時30分)
 - 議題1. 6月1日理事会の進め方について
 - 2. 理事の投票結果と推薦リスト(案)づくり
 - 3. 6月26日総会の議事進行について
 - 4. 住宅手当について
 - 5. 毎日国際交流賞について
 - 6. 報告

各種委員会の開催

< 正会員委員会 >

正会員に有効かつ必要と思われる情報に関して E メール等を使い随時発信した。情報内容としては会議、セミナー関係や物資提供の案内など。また、会員向けメーリングリストを開始し、会員間のイベント情報などの情報交換の場を作った。正会員委員会を開催し、主に正会員申込団体の審査を行った。本年度は7団体から申込をいただき、6団体が新規に正会員として JANIC 理事会で承認された。

- ・ 第1回 (2008年8月20日(水) 10:00～12:00)

議題 1 . 正会員入会審査

A : 障害分野 NGO 連絡会(JANNET)

B : カリタス・ジャパン

議題 2 . 2008 年度正会員の集いについて

・ 第 2 回 (2009 年 1 月 16 日 (金) 10:00 ~ 12:00)

議題 1 . 正会員入会審査

A : (特活) フェアトレード・ラベル・ジャパン

B : (特活) 国境なき子どもたち

C : (特活) ヒューマンライツ・ナウ

D : NPO 法人 聖地のこどもを支える会

議題 2 . 「2008 年度正会員の集い」振返り

・ 第 3 回 (2009 年 3 月 11 日 (金) 14:00 ~ 15:15)

議題 1 . 正会員入会審査

(特活) グッドネーバーズ・ジャパン

議題 2 . 2008 年度正会員委員会振返り

・ 第 4 回 (2009 年 5 月 14 日 (木) 10:00 ~ 11:45)

議題 1 . 正会員入会審査

A : (特活) A D R A ジャパン

B : アジアの女性と子どもネットワーク

職員の福利厚生

健康保険、厚生年金保険、労災保険および雇用保険に継続加入している。

正会員

(2009年3月31日現在 82団体)

- (特活)アーユス仏教国際協力ネットワーク
(特活)ICA 文化事業協会
(特活)ACTION
(財)アジア・アフリカ国際奉仕財団
(学)アジア学院
(特活)ESA アジア教育支援の会
(社)アジア協会アジア友の会
(特活)アジアキリスト教教育基金
(特活)アジア日本相互交流センターICAN
アジアの友を支援する RACK*1
(特活)APEX
(特活)アフリカ地域開発市民の会(CanDo)
(特活)アフリカ日本協議会
(特活)アムダ
(特活)WE21 ジャパン
(特活)ACE
(特活)エファジャパン
(財)オイスカ
(特活)幼い難民を考える会
(特活)オックスファム・ジャパン
(特活)開発教育協会
(特活)かものはしプロジェクト
(特活)カラ = 西アフリカ農村自立協力会
(特活)環境修復保全機構
(財)ケア・インターナショナル ジャパン
(特活)グッドネーバース・ジャパン*2
(財)国際開発救援財団
(特活)国際子ども権利センター
(特活)国際協力 NGO・IV - JAPAN
国際民間援護協議会「メコン基金」
(特活)国際ボランティアセンター山形(IVY)
(特活)国境なき子どもたち*3
(特活)金光教平和活動センター
(特活)ジーエルエム・インスティテュート
(特活)C.P.I.教育文化交流推進委員会
(特活)シェア = 国際保健協力市民の会
(特活)JHP・学校をつくる会
(特活)JEN
(特活)シャプラニール=市民による海外協力の会
(社)シャンティ国際ボランティア会
(財)ジョイセフ(家族計画国際協力財団)
障害分野 NGO 連絡会(JANNET) *4
NPO 法人 聖地のこどもを支える会*5
(社)セーブ・ザ・チルドレン・ジャパン
(財)世界宗教者平和会議日本委員会
(特活)地球市民の会
(特活)地球市民 ACT かながわ / TPAK
(特活)地球の木
(特活)地球の友と歩む会 / LIFE
(特活)地球緑化センター
(特活)チャイルド・ファンド・ジャパン
(特活)燈台(アフガン難民救援協力会)
(特活)東方科学技術協力会
(特活)名古屋 NGO センター*6
(特活)難民支援協会
(特活)難民を助ける会
(特活)2050
(社)日本キリスト教海外医療協力会
(特活)日本国際ボランティアセンター
(特活)日本ヒアリングインターナショナル
(特活)日本フィリピンボランティア協会
(財)日本フォスター・プラン協会
(特活)日本紛争予防センター

(財)民際センター
日本リザルツ
(特活)熱帯森林保護団体
(特活)ノマドインターナショナル
(特活)ハビタット・フォー・ヒューマニティ・ジャパン
(特活)パレスチナ子どものキャンペーン
(特活)ハンガー・フリー・ワールド
(特活)ピース ウインズ・ジャパン
(特活)ヒューマンライツ・ナウ*7
(特活)ヒマラヤ保全協会
BAC 仏教救援センター
(特活)フェアトレード・ラベル・ジャパン*8
(特活)ブリッジ エーシア ジャパン
緑のサヘル
(特活)緑の地球ネットワーク
(特活)メドウサン・デュ・モンド ジャパン
(特活)ラオスのこども
(特活)れんげ国際ボランティア会
(特活)ワールド・ビジョン・ジャパン
ワールドファミリー基金
ワールドランナーズ・ジャパン

*1 2008年4月30日付で退会

*2 2009年4月3日付で入会

*3 2009年1月30日付で入会

*4 2008年8月29日付で入会

*5 2009年1月30日付で入会

*6 2008年8月8日付で退会

*7 2009年1月30日付で入会

*8 2009年1月30日付で入会

協力会員（2009年3月31日）

個人協力会員 174名

団体協力会員 58団体

企業協力会員 20社